



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.11
文責 芹川博文
6月26日(金)

6.23, 8.6, 8.9, 8.15
～ 戦後81年目の沖縄慰霊の日を迎えて ～

右の文は、沖縄全戦没者追悼式で中学2年の女子生徒が伝えた平和への思いです。

6月23日。この日は、20万人超の命、住民4人に1人が命を落とした沖縄戦の組織的な戦闘が終わった日です。今年の追悼式でも小中学生による「平和の詩」が発表されました。真っ直ぐ前を見つめて伝える女子生徒。その言葉を聞きながら、これまでの多くの人の思いと命によって、今の自分が存在していること、そして、この命を次の時代に繋いでいく責務があることを改めて感じました。

今、隈府小は人権月間。人権について学習しています。決していじめや差別を許してはいけないこと、自分と同じように相手もかけがえのない大切な存在であること、暴力や言葉で人を傷つけてはならないこと、もし誰かを傷つけてしまったら勇気をもって謝ること・・・どれも、私たちが互いに安心して生活するために不可欠なことです。

今週月曜日の朝、一人の児童の「ヤッホー」という友だちへのあいさつが、校長室に聞こえてきました。何とも爽やかな朝の空気を感じました。

イランの小学校が爆撃され160名もの命が一瞬にして奪われました。国は違えど同じ小学生。その日の彼らを想像します。「いってきます」と家を出て、学校で友だちとあいさつを交わし、授業を受けていたであろう姿。

6月23日の次は、8月6日(広島原爆投下の日)、8月9日(長崎原爆投下の日)、そして8月15日(終戦の日)と続きます。世界の状況は厳しさを増しています。当時の人々が命を繋いでくれたように、今を生きる私たちも平和への道を、何とかして切り拓かねばと考えます。子どもたちが大人になる時代が今より平和になるために。

「生きたいと願った証」

(前略)

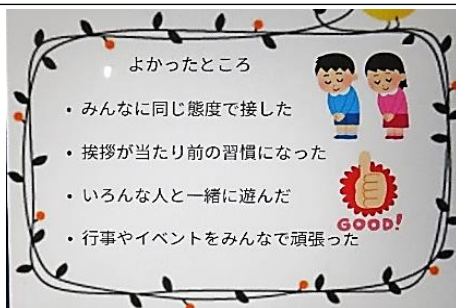
曾祖母の右足には今も傷が残っている
それは戦時中 自分で引っ掻いた傷
灰色の空の下 爆撃の音が鳴り響く
恐怖と不安でいっぱいになり
右手に握った石で
自分の右足を何度も何度も引っ掻く
気づけば手も足も血だらけだった

(中略)

戦争は人を傷つける
体だけじゃない
心もまで壊してしまう
家族と笑う時間 友達と過ごす日々
「また明日ね」と言える幸せ
そんな当たり前を全て奪ってしまう
でもそれは当たり前なんかじゃない
血と涙の中を生き抜いた人たちが
命を繋いでくれたから
今の私たちがいる
もし曾祖母が あの日走っていなかったら
もし あの日 命を落としていたら
私はここにいなかった

(後略)

自分たちで進行「手伝います」の友の声 ～ 児童集会の姿から ～



今週、児童集会がありました(左の写真)。児童集会は、最初から最後まで全て自分たちで進行します。集会が終わると、役員以外の6年生も「手伝います」と言って機材や道具を協力して片付けていました(右の写真)。言われたことを黙々とこなしていただけだった私の子ども時代とは大きく違います。自分たちで考え行動する彼らの姿が頼もしく輝いた朝でした。

今回の集会では、自分たちでまとめた隈府小の「よかったところ(中央の図)」や「これからがんばること」を伝えていました。隈府小の主役は子どもたちです。子どもたちの自主性や自治力、力を合わせて高め合う力が育まれる学校でありたいと願います。明日が楽しみな学校をめざして。